

はじめに

本報告は、文部科学省平成 22 年度「国際協イニシアティブ」教育協力拠点形成事業の一環として行った「農学知的支援ネットワークの組織力を活かした科学技術協力の推進」についてまとめたものです。

名古屋大学農学国際教育協力研究センター（以下、「農国センター」）は、平成 20 年度から、国際科学技術協力活動への大学の参加をこれまで以上に促進するために、我が国の農林水産分野の大学間と国際農業研究機関との連携を主導するネットワーク体制の構築を目指した活動に取り組んできました。その結果、平成 21 年 11 月 30 日、農林水産分野における教育・研究・社会貢献等に係わる国際協力活動への参加の意図を有する大学間の連携組織である「農学知的支援ネットワーク（JISNAS: Japan Intellectual Support Network in Agricultural Sciences）」が、文部科学省などの協力を得て、正式に発足しました。

本年度は、この JISNAS の組織力を活かし、大学等有する知的資源を組織的かつ継続的に活用し、大学を中心とした我が国の専門組織が有する専門的、網羅的かつ高度な「知と経験」の提供を通じて、農林水産分野における国際協力の一層の質の向上を目指しました。具体的には、平成 22 年度の目標として、今後の効率的・効果的なネットワーク活動に向けた実施体制の整備を掲げ、①会員に対する具体的な支援やネットワークとしてのモデル事業を開始するとともに、②会員間のコミュニケーション手段としてのホームページ機能の強化・活用を通じた情報の発信・共有体制の定着、③活動事例の形成・蓄積・共有による大学・機関等の科学技術協力におけるネットワークの実用性と有用性の明確化、④広報の強化によるさらなる会員獲得などに取り組みました。

また、平成 22 年 10 月 1 日に、独立行政法人国際協力機構（JICA）の職員が JISNAS の事務局次長として着任するなど、政府開発援助（ODA）の実施機関である JICA との連携体制を強化しました。

本報告書がより多くの大学や研究機関に所属される研究者の皆様には有用な情報を提供し、JISNAS への参加の契機となれば幸いです。また、本年度の活動の実施にあたり、関係機関や非常に多くの研究者の皆様から趣旨へのご賛同とご協力をいただきました。協力していただいた皆様へ、記して御礼申し上げますとともに今後も引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
浅沼 修一

